

## 子どもたちの豊かな未来に つながる育ちを考える

町は平成29年度から、乳幼児期の子どもたちの育ちについて各児童施設の実践事例を積み上げ、育ちの理解を可視化する「紫波町幼児教育・保育共通カリキュラム」の作成に取り組んでいます。カリキュラム作成委員会がこれまで積み上げてきた成果を発表する場として、実践研究発表会を2月25日、情報交流館で開催しました。

発表では、各児童施設の職員が0～5歳児の各年齢で起こった出来事を取り上げ、その出来事が子どもたちにとってどんな気持ちや育んでいるのかということや、保育者としての接し方などについて考察。年齢に応じて、好奇心や探究心、達成感、他者への思いやりなどの気持ちや育まれていくことを共有しました。その後、各児童施設が0～5歳児のそれぞれの育ちを表現するキャッチフレーズを発表。リンゴや餅など、町の特産物を用いた表現や、キャラクターを用いた表現などがあり、それぞれの児童施設の子どもの育ちへの思いが込められていました。

最後は岩手大学教育学



各児童施設の代表者が子どもの育ちに関するキャッチフレーズを発表

部附属幼稚園副園長の下山恵さんが「主体性や意欲の芽は安心感を感じるにより育まれます。思いやりの心は、人からやさしくしてもらった経験の積み重ねから生まれるものであり、好奇心や探究心の育みには『やってみよう』と心が動くような環境が必要です」と講評しました。

古館地区で子育て支援ひろばに関わる佐藤隆子さんは「発表の中で『質の高い保育』という言葉が何度か出てきましたが、私たち子育て支援に関わる人たちも、見守るだけでなく『質の高い見守り・子育て支援』を行う必要があると感じました。キャッチフレーズ発表では『紫あ波せにおがる』など紫波町らしいものが出されていてとても良かったです」と話していました。

## キラッと☆ちゃ・ちゃ・ちゃんねる

このコーナーでは毎月、町の子育て支援情報など、「子ども」に関する情報をお伝えしています。今回は、本年度から仕組みなどが新しくなる町内児童施設について紹介します。

### ○あづま幼稚園が認定こども園(幼稚園型)になりました

あづま幼稚園(畑山俊夫園長・志和地区)は4月から、「認定こども園あづま幼稚園」になりました。園の定員170人(3歳以上)のうち、教育認定児童は150人、保育認定児童は20人になります。これにより、預かり時間は最大で午前7時30分から午後6時30分までとなります。



志和地区の滝名川沿いにある認定こども園あづま幼稚園

### ○旧勤労青少年ホームの建物に「日詰第二こどもの家」が移転、「日詰第三こどもの家」が新設

待機児童の解消に向け、町は本年度から、旧勤労青少年ホームの建物に日詰第二こどもの家に移転し、日詰第三こどもの家を新設します。これにより、昨年度よりも定員が30人増加することとなります。



日詰第二・三こどもの家となる旧勤労青少年ホーム

### ○長岡地区に放課後児童クラブ「夢アップルクラブ」が開所

夢アップルクラブは、地域団体「夢アップルクラブ運営協議会」(七木田一善代表)が運営する民間の放課後児童クラブです。多様化する子育て世帯のライフスタイルに対応するため、地元の保護者から声が上がって、開所に至りました。定員は23人で、本年度は18人が利用予定。長岡小学校の北側にある長岡児童館の一室を町から借用して運営されます。



夢アップルクラブのスタッフの皆さんと保護者、子どもたち(4月1日の入会式で撮影)

【担当・問合せ】 こども課 子育て支援室 ☎672-2111 内線3182